



(平成29年度新人看護師)



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重します。
- 安全で優しいチーム医療を提供します。
- 倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
- 地域医療連携の促進を図ります。
- 骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
- 職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第57号
2017.4

発行責任者 院長 朝妻 孝仁

せき損研修会開催を開催しました

テーマ『脊髄損傷治療の現状と課題』

開催日時：平成29年4月22日（土） 14:00～16:30

開催場所：武蔵村山市民総合センター 3階集会室

主催：NPO法人日本せきずい基金

協賛：株式会社 日本コロプラスト

平成29年4月22日、せき損研修会が行われました。NPO法人日本せきずい基金の主催でおこなわれた村山医療センターの職員の勉強会です。今回で2回目になります。

前回同様にせきずい基金の大濱理事長と安藤副理事長にご出席いただきました。今回は特別ゲストとして日本財団パラリンピックサポートセンターのマセソン美季さんと国立病院機構本部の古都賢一副理事長にご参加いただきました。指扇病院の味村俊樹副院長に特別講演をお願いしました。当院から3人の講師による講演のあとでパネルディスカッションが行われました。いずれも深い内容で充実した週末でした。



朝妻孝仁院長

講演1 頸髄損傷患者における診療行為と医療費の検証

診療情報管理士 藪下千恵美

頸髄損傷患者さんの治療を行っていくに当たって、医療経済的な面からの問題点について報告していただきました。



講演2 チームで支える排尿障がい

脊損病棟副看護師長 溝口麻里

脊髄損傷の患者さんの抱える排尿障がいへの対策として排尿ケアチームによる取り組みを報告していただきました。



講演3 当院におけるロボットスーツHAL自立支援用の使用経験

理学療法士 栗原淳

下肢不全麻痺の患者さんへのHALロボットスーツによるリハビリの効果について報告していただきました。



特別講演 脊髄損傷の排便障害と経肛門的洗腸

医療法人三慶会 指扇病院

味村俊樹副院長

排便障害の基礎知識と最新の治療について講演していただきました。



特別講演 日本財団パラリンピックサポートセンター

推進戦略部プロジェクトマネージャー

マセソン美季

ご自身が経験された脊損患者としての村山医療センターでの思い出と、現在のご活躍について講演していただきました。



土曜日の午後でしたが、椅子が足りなくなるほどの参加人数でした。時間に限りがあり後半のパネルディスカッションに余裕がなくなってしまったのが残念です。次回は近隣の医療関係者や患者さんにも参加していただけるよう考えていきたいと思えます。



谷戸祥之副院長

せきずい基金
大濱眞理事長



小見山貴継 整形外科医長



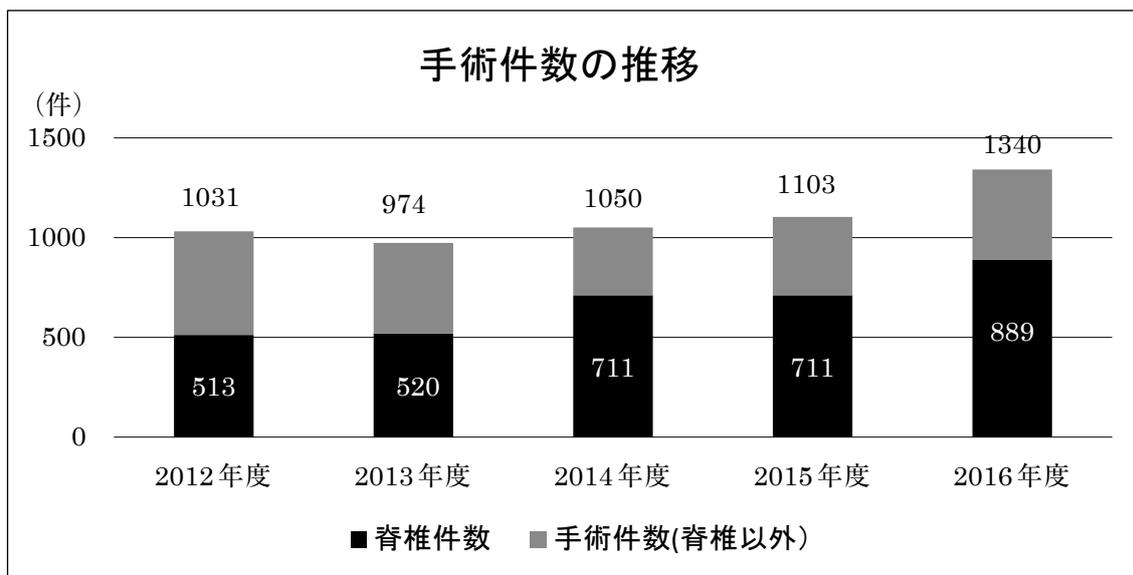
国立病院機構 古都賢一副理事長

副院長就任のご挨拶

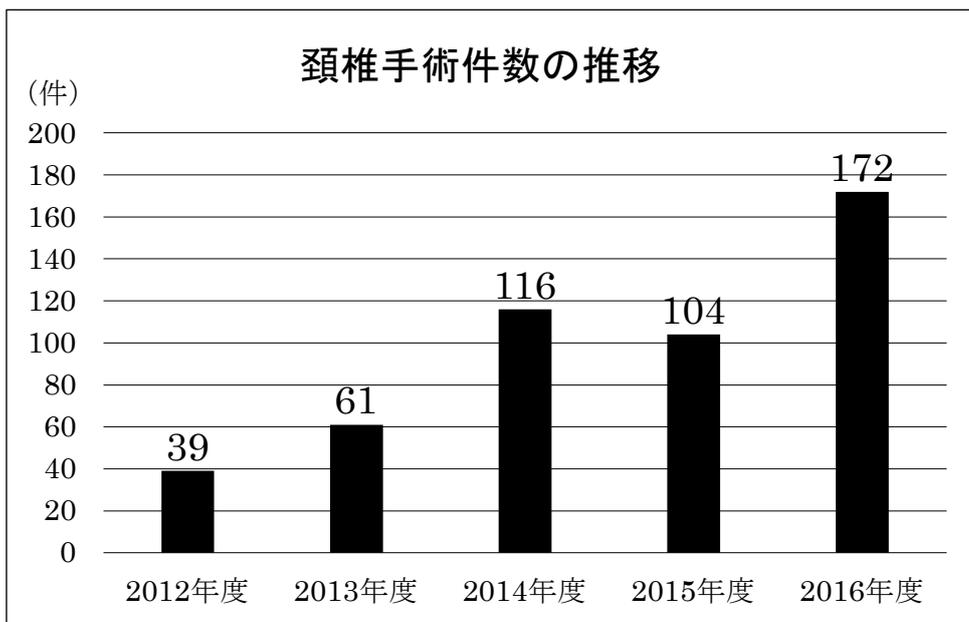
副院長 谷戸 祥之

本年4月より副院長としての任務を承りました。これまで以上に村山医療センターのために努力するよう頑張っていくしますので宜しくお願いいたします。私は2013年10月1日に手術部長として村山医療センターに赴任いたしました。かつて1983年7月から一年間大谷清院長のもと、国立村山病院で修業をさせていただいたのが、私の脊椎外科医としての1年目でありました。その後慶應義塾大学病院、藤田保険衛生大学病院、防衛医科大学校と三つの大学病院などで臨床、研究、教育に携わり、多くの後輩達に恵まれて仕事をすることができました。20年間の外回りのあとで村山医療センターにもどってきたこととなります。

さて私が再就職してからのこの3年半の間に当院は大きく変わりました。手術室に3DCTとナビゲーションシステム、手術用顕微鏡などの機材を充実させました。ネットを用いた初診予約システムを確立し、電子カルテを導入し病院機能評価も経験しました。朝妻院長のご努力の結果、防衛医大より吉原愛雄先生を臨床研究部長として向かい入れ、慶應医局より麻酔科常勤医は確保されました。手術件数は年々増加し、脊椎手術件数は900件に届きそうです。

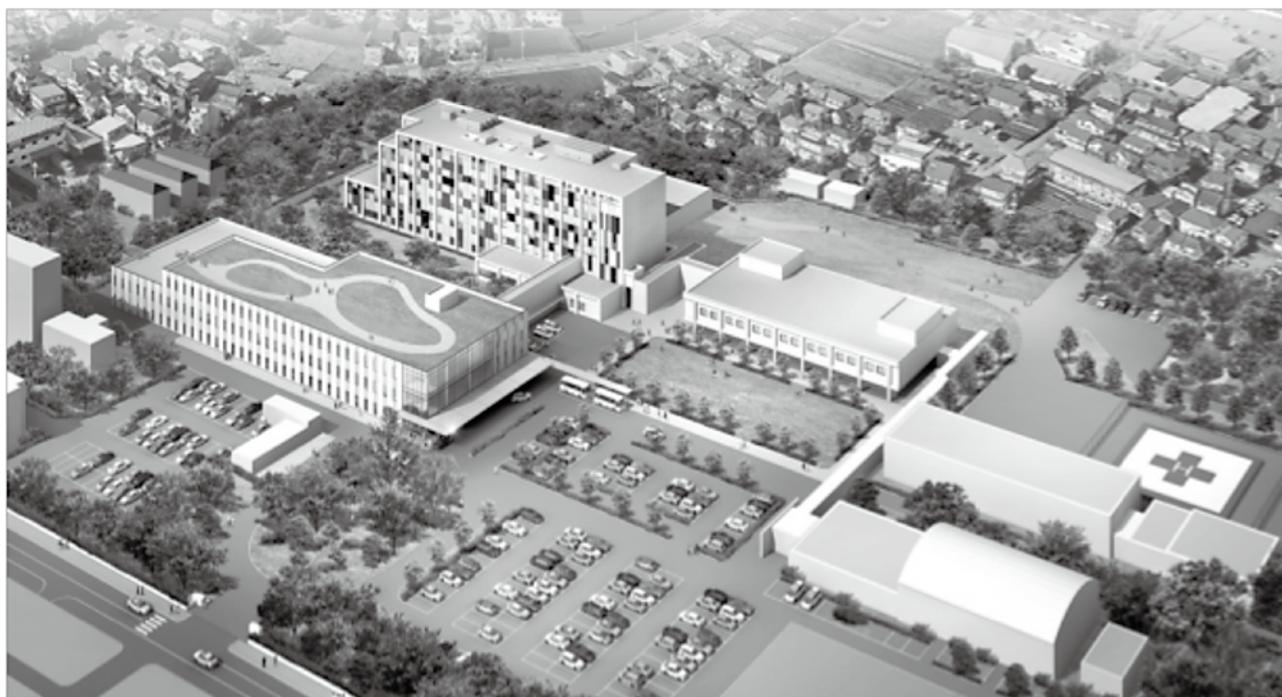


私が赴任する前の村山医療センターは腰椎分野では有名でした。しかし私が白石建先生（元東京歯科大学市川総合病院教授）に教えをうけた低侵襲頸椎除圧術（skip laminoplasty）を導入してから、頸椎手術は2012年度の4倍強と急速に増加しました。



昨年には東京女子医科大学八千代医療センターより大石英人先生を迎え、2人の常勤医による外科部門も復活しました。現在脊椎脊髄を専門にする常勤医は12人となりました。国内でも12人のスタッフによる脊椎脊髄病院はありません。また本年より下肢関節スタッフによる人工関節センターが稼働し始めました。

これから当院はまだまだ変革をむかえます。来年秋には新病棟が建設される予定ですが、工事は開始されました。さらに新外来棟の建設へむけての努力が必要です。職員一同協力して働きやすく、安全な環境を整えていきます。宜しくお願いいたします。



(新病棟、新外来棟完成予想図)

事務部長・看護部長の赴任あいさつ



事務部長 佐藤 星斗

4月1日付で小田原城がある神奈川県小田原市の箱根病院から異動して参りました佐藤と申します。

村山医療センターは、脊髄損傷及び骨・運動器疾患に関する高度な医療を行うことを基本とし、早期の社会復帰を目指したりハビリテーションに至るまでの一貫した医療を行っている病院であり、勤務できることに誇りを持っております。

さて、事務部門の役割は、経営基盤の安定化を図るとともに、医療スタッフが円滑に業務を遂行できるように支援を行い、職員が働きやすい環境と、患者の皆様が安心して快適な診療等を受けるための環境作りに努めていくことです。

当センターでは、老朽化した病棟の建替整備が始まり、外来管理・治療棟整備等に向けて幾つもの課題を抱えていますが、事務部としてしっかり取り組んでいく所存でありますので、よろしくお願いたします。



看護部長 佐藤 千春

4月1日付で国立国際医療研究センター病院から昇任で参りました。初めて訪れた村山医療センターは、正面玄関ロタリー中庭で真白い花を満開に咲かせている大きな木蓮と、足元にはよく手入れされて咲いているチューリップが印象的なとても素敵な病院でした。建物の中に進むと歴史の重さがかかなり感じられる造りではありましたが、平成30年秋には新病棟が完成するとのことで、着任して間もなくから、売店や地域連携室の移転などが始まりました。当院は、病棟が新築に変わるだけでなく、骨・運動器疾患の中でも脊椎脊髄・下肢関節疾患を中心とした、より専門性の高い病院へと変わってきています。

“患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供する”という当院の理念のもと、専門性を発揮した看護を提供するのが、私たち看護師の役割です。そのために、チーム医療の一員として他部門と協働し、患者さんに安全・安心な看護が提供できるよう取り組んで参りたいと思います。

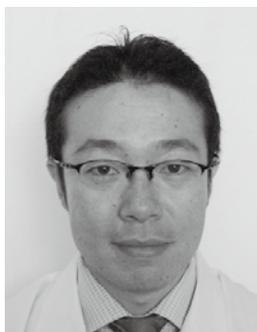
どうぞよろしくお願いたします。

新任医師の赴任あいさつ



整形外科医師 笹治 達郎 (ささじ たつろう)

はじめまして。4月から勤務させて頂いている笹治達郎と申します。伝統ある村山医療センターで働けることを大変光栄に思います。4月までは宮城県大崎市民病院で脊椎疾患と多発外傷の手術を中心に診療していました。今までの経験を最大限に活かし、皆様のお役に立てる様精一杯努力して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



整形外科医師 許斐 恒彦 (このみ つねひこ)

4月から戻って参りました、許斐と申します。平成25年4月より当センターにて整形外科医として3年半赴任したのち、平成28年10月から半年間、炭坑と焼き鳥で有名な北海道美唄（びばい）市にあります、北海道せき損センターにて脊髄損傷医療とスキーの研鑽を積んで戻って参りました。専門は脊椎・脊髄疾患ですが、スポーツ傷害（脊椎）、漢方薬を用いた痛みの診療にも力を入れていく所存です。どうぞよろしくようお願い申し上げます。



整形外科医師 清水 英徳 (しみず ひでのり)

4月から村山医療センターに赴任いたしました、整形外科の清水英徳と申します。股関節の疾患を中心に膝関節などの下肢変性疾患や外傷含めて幅広く診察させて頂いております。股関節・膝関節はもちろんのこと、様々な疾患に対応いたしますので、気軽に受診いただくと幸いです。

地域の皆様に貢献できるよう、誠心誠意治療を行っていきたくと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



リハビリテーション科医師 竹内 翔 (たけうち しょう)

4月から村山医療センターリハビリテーション科に赴任いたしました竹内翔と申します。患者様・御家族が、より良い日常を過ごせるようになるためのリハビリを提供できるよう、診療させていただきます。よろしく願いいたします。

第9回院内臨床研究発表会を開催しました

臨床研究部長 吉原 愛雄

平成29年3月21日（火）に毎年恒例の院内臨床研究発表会を開催致しました。この発表会は、日頃の臨床研究の成果や診療に関する調査結果などを発表するものでありますが、毎年業務多忙の中多数の演題発表が行われています。今年は特に電子カルテ導入直後という時期でありましたが、多くの部署からの参加者を迎え開催することができました。

始めに朝妻孝仁院長の開会挨拶の後、トップパッターとして看護部（外来）の芳賀さんが「脊柱疾患・下肢関節疾患患者が手術決定直後に抱える不安の実態調査」について発表しました。

次に、臨床検査科の小澤さんが「偏光フィルター（鋭敏色板）による関節液中の結晶鑑別」、看護部（4病棟）の太田さんが「全身麻酔下で脊柱手術を受けた整形外科における術後せん妄の対策とその効果」、作業療法士の高橋さんが「精神的問題をかかえる女性脊髄損傷者の排泄動作について」、看護部（6病棟）の清岡さんが「回復期脳卒中患者の病棟内歩行訓練開始時期の検討」を発表し、次に作業療法士の古田さんが「Pusher症状を呈する患者に対し、臥位時感覚入力を試みた2症例」を、同じく作業療法士長の小林さんが「スプリント療法によりSCIMが向上した不全頸損の症例報告」、理学療法士の境さんが「脊髄損傷不全麻痺患者に対し下肢装着型補助ロボット（HAL-HN01）、(ROPOX ALL IN ONE) を使用し歩行動作獲得にアプローチした一症例」、リハビリテーション科医長の宇内先生が「SCIMを用いた脊髄損傷患者のADL構造解析」、看護部（8病棟）の竹松さんが「回復期脊髄損傷患者の身体的特徴の推移」を発表しました。最後は外来診療部長の竹光先生が「村山医療センター骨粗鬆症の現状と問題点」の発表を行い、谷戸統括診療部長の閉会の挨拶で終了しました。

発表中は、どの演題も日頃の成果を発表する場であるためか、自然と発表に力が入り会場も熱気につつまれました。また、各発表毎の質疑応答の時間に収まらないほど会場からは活発な質問が飛び出し、とても有意義な発表会となりました。また本発表会は、発表内容の審査も行っており、上位3名は後日院長から表彰を受けました。

臨床研究は日常診療における疑問点をテーマとして行う研究であり、その結果は、直接的或いは間接的に診療にフィードバックされるものであります。本会は院内の異なる職種のスタッフを一堂に集めて研究成果を発表する場であり、各部署における疑問点や創意工夫の状況、実際に努力していることなどを互いに知りあうよい機会となりました。病院全体の医療レベルの向上につながる非常に有益な会であったと感じております。職員の皆さんは、来年も行う予定ですので、是非エントリーをお願い致します。

日本医師会精度管理調査報告

臨床検査技師長 長田 裕次

当院検査室は9名の臨床検査技師によって生化学・免疫・血液・一般・細菌・病理・生理検査部門より構成されています。臨床検査技師の業務は検査結果の精度を如何に高レベルで保つかが重要なポイントとなっています。また、臨床検査における精度管理は如何にその検査が真に近い値を出しているかの裏づけとなります。

精度管理には二つの方法があり、一つは施設内で管理検体を使用し、その測定値を評価する内部精度管理と年に数回外部業者等による試料を測定し、評価する外部精度管理があります。その外部精度管理調査の一つとして日本医師会が主催する外部精度管理調査があります。平成28年度の参加施設数は全国で3,223と毎年参加施設は増加傾向にあります。毎年一度の外部精度管理とあってその評価はその施設の信頼信用に関わるため、各施設では必死に取り組んでいます。現在の臨床検査の目標として、標準化が強く求められています。どの施設にかかっても、同一レベルでの検査結果が臨床サイドへ提供できるように臨床検査そのものの質が求められています。

そこで、当院検査室の日本医師会精度管理調査報告をご紹介します。日本医師会の精度管理調査は平成28年度において全49項目からなり、生化学検査項目ではコレステロールやGOT、GPT、・・・血液検査項目では赤血球数、白血球数等があり、当検査室は44項目の参加となっています。試料は低、中、高濃度の3段階、もしくは2段階となっています。その試料を測定した結果を基に同一機器ごとや同一検査法ごとに細分化され調査評価が行われます。1項目のテスト点数は5点が満点で評価され、総合的に100点満点に修正され評価されます。当検査室は平成25,26年と2年続けて100点の偉業を成し遂げ、3年連続を狙っていましたが残念ながらその夢は叶いませんでした。2年の連続でも難しいところ、3年連続は皆無に等しいことと思います。ちなみに、今回は99.6点と頑張りましたが2項目ほど4点の評価がつかしました。次年度はリベンジに燃えたいと思います。国立病院機構内の成績ではベスト10以内を取っています。当施設をご利用の皆さん、これから受診をお考えの方、御安心下さい!!当検査科精度管理は最高のレベルを維持し、皆様へ信頼される検査データを提供します。更に、更なる向上心を持って、日本医師会精度管理調査結果を高成績で収めたいと考えています。

日本医師会精度管理調査結果（平成24年度～平成28年度）

年度	項目	評価項目数	評価項目点数	評価項目満点数	評価項目修正点	参加項目数	参加項目満点数	参加項目修正点
平成24年度		46	592	595	99.5	46	595	99.5
平成25年度		44	565	565	100.0	44	570	99.1
平成26年度		44	570	570	100.0	44	570	100.0
平成27年度		44	564	565	99.8	44	565	99.8
平成28年度		44	563	565	99.6	44	565	99.6

災害訓練

当院では2011年3月の東日本大震災の教訓を踏まえ、毎年災害訓練を実施しています。病院の周囲は住宅地、団地であるため、災害発生の際は多くの被災者が来院することが予想されます。そのことから常日頃より訓練を行い、防災意識を高めています。

年度末も近くなった平成29年3月23日、忙しい業務の中、総勢120名の職員が訓練に参加しました。

訓練後の反省会ではいくつかの意見が出され、次回の訓練あるいは実際に災害が発生した時の行動に役立つと思われます。



患者さんの権利と責任

1. 個人の人格は尊重され、安全で良質な医療を受ける権利があります。
2. 自分の受ける医療について、十分な説明を受けた上で自分の意思で医療の選択をする権利があります。
3. 自分の受ける医療に対し、不明な点は質問することができ、診療情報の提供を受けたり、開示を求める権利があります。
4. 個人の情報を直接医療に関わる医療従事者以外の第三者に開示されない権利があります。
5. 自分の受ける医療について、別の病院を受診したり転院することができます。その際、十分な診療情報の提供を受ける権利があります。
6. 自分の健康に関する情報を正しく提供し、また他の患者の診療に支障をあたえず、医療従事者と協働して医療に参加する責任があります。

臨床倫理指針

1. 患者さんの人格、信仰、意思等を尊重し、説明と同意に基づく患者さんの自己決定を優先します。
2. 患者さんのプライバシーを尊重し、守秘義務の遵守と個人情報の保護を徹底します。
3. 患者さんの尊厳及び人権に関わる医療については、臨床倫理委員会で審議を行い、方針を決定します。
4. 関係法規、ガイドラインを遵守し、検査・診断・治療・研究を行います。
5. 医療の発展のために積極的に臨床研究を行い、その実施においては倫理審査委員会において十分検討を行います。

参加無料

村山医療センター「看護の日」フェスティバルのお知らせ

日時：平成29年5月20日(土) 10:00～15:30

場所：イオンモールむさし村山 サウスコート1階

～イベント内容～

身体検査(身長・体重・体脂肪など)骨密度測定・

AED体験・運動能力計測

感染予防コーナー

整形外科に関する医療相談・おくすり相談・栄養相談・福祉相談

白衣体験(写真付)

是非!
ご来場ください。



外 来 診 療 担 当 医 師

■ 一般外来 ※受付時間 (初診:8時30分～11時まで)
再診:8時30分～12時まで 平成29年4月1日現在

診療科等	月	火	水	木	金	備考	
内科	片寄	岡田	片寄	岡田	岡田		
外科	大石	飯野		飯野	大石		
整形外科	再診	脊椎 ○朝妻 ○竹光	◎谷戸 ◎藤吉 ◎安田 加藤	○○金子 山根 笹治	◎許斐	小見山 大柰 矢内	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	清水	窪田	吉原	笹崎	股・膝関節・下肢
		一般			中川		
	初診	交替制					
リハビリテーション科	宇内	植村	竹内		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…竹内 第2金…植村 第3金…宇内	
歯科	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	予約制	

■ 専門外来 (全て予約のみ)

診療科等	月	火	水	木	金	備考
内科リウマチ				片寄 (13:00～)		予約制
側弯			金子 (13:30-15時)	金子 (第2-4週13:30-16時)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	植村/倉片/竹内 (13:30～)					予約制
禁煙外来		岡田 (午前11:30～)		岡田 (午前11:30～)	岡田 (午前11:30～)	予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

診療について

診療日 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始は除く)
診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分
再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科)随時受付けております。
専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。
毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1
TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210
URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>